

1.9 淀川水系の環境ホルモン物質(平成10年度)



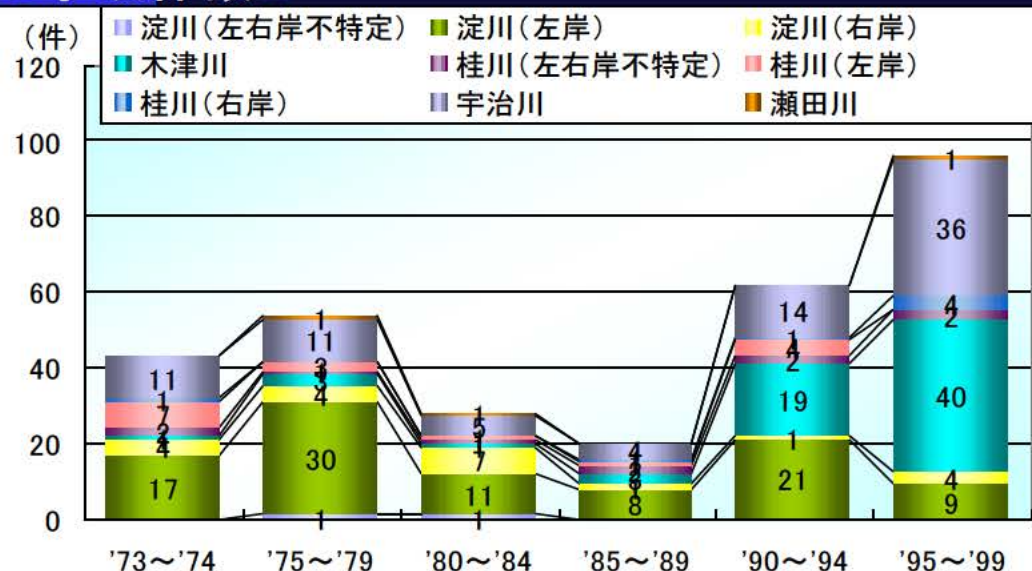
殆どの調査地点で検出対象物質11種中以下の3物質が検出されている他、地点によっては他の環境ホルモン物質も検出されています。

17 β -エストラジオール
ノニルフェノール
ビスフェノールA

*基準値は現在なし

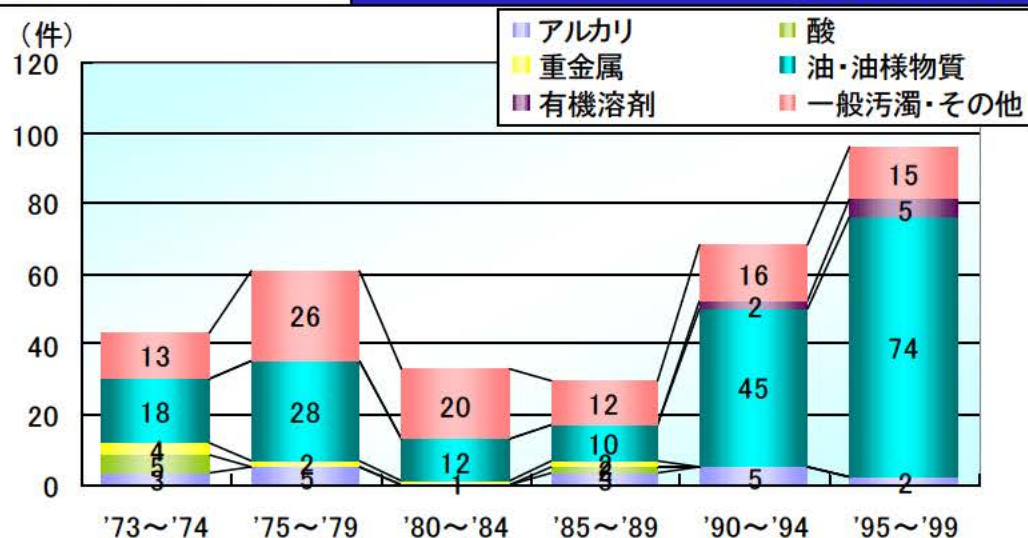
3.1 淀川水系における水質事故の発生状況及び原因

《事故件数》



事故件数が増加しています。

《事故原因》



主な事故原因は油流出です。

4.1 流水保全水路整備事業

流水保全水路整備事業とは...

汚濁流入支川等を本川と分離、流下させ、「利水障害の回避」、「河川環境の整備と保全」、「危機回避」を図る事業。



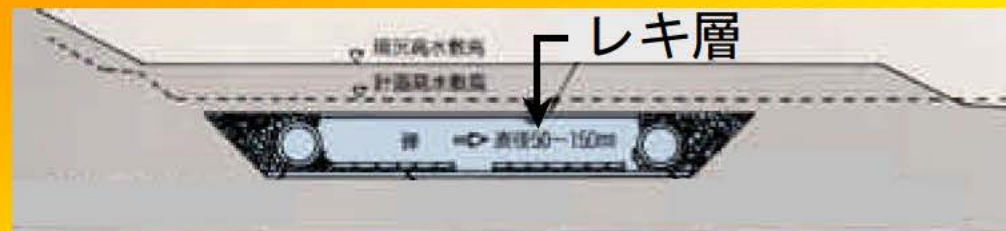
平成13年度末に京都府域での事業が概成予定。

4.2 浄化施設の整備状況

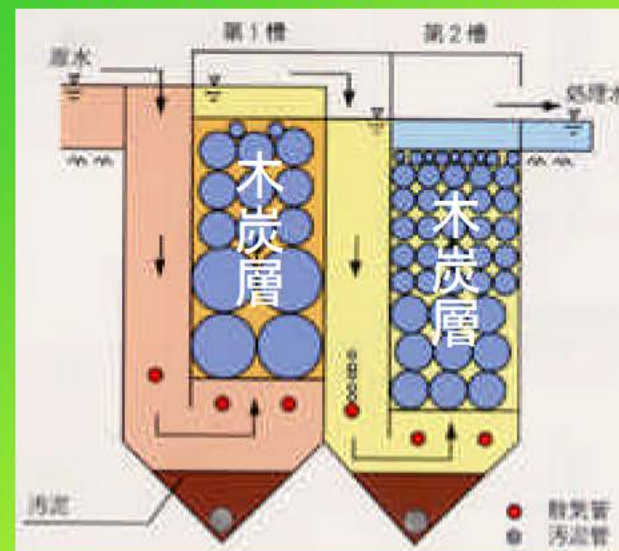
現在整備されている浄化施設

- 天神川浄化施設(礫間接触酸化法)
- 鳥羽木炭浄化施設(上向流木炭浄化法)
- 鳥羽礫間浄化施設(礫間接触酸化法)
- 天野川浄化施設(礫間接触酸化法)

礫間接触酸化法とは・・・



上向流木炭浄化法とは・・・



2. 生物

【生物調査地点(水辺の国勢調査)】

三川合流 ●

鵜殿 ★■

木津川

出口 ●▲▼■

豊里 ★

城北 ●▲▼■

中津 ★

淀川河口 ●▲▼

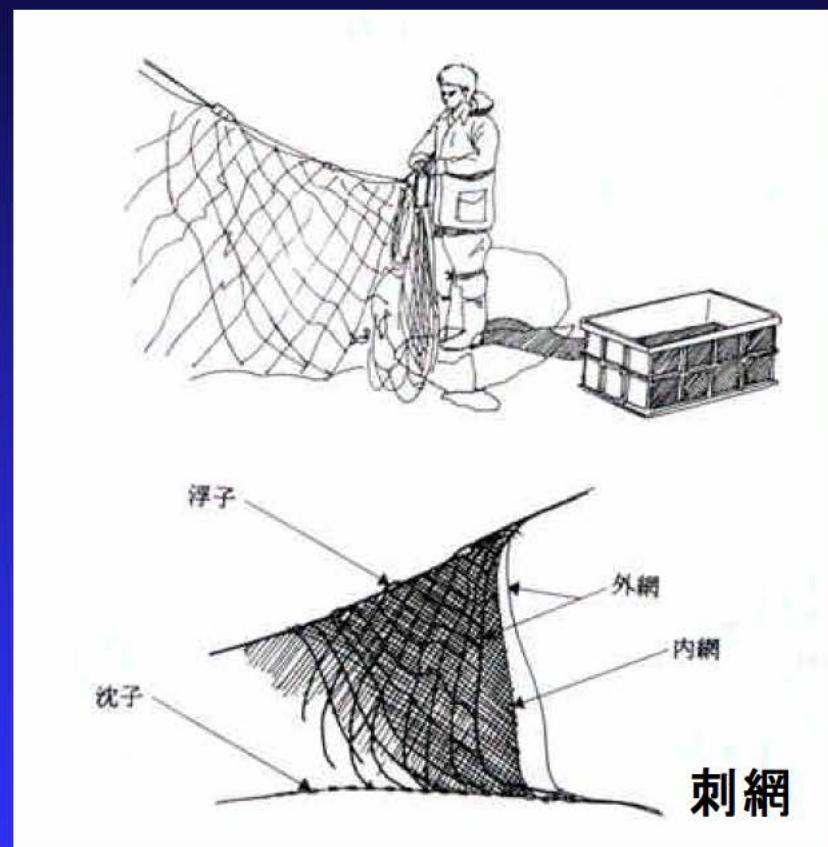
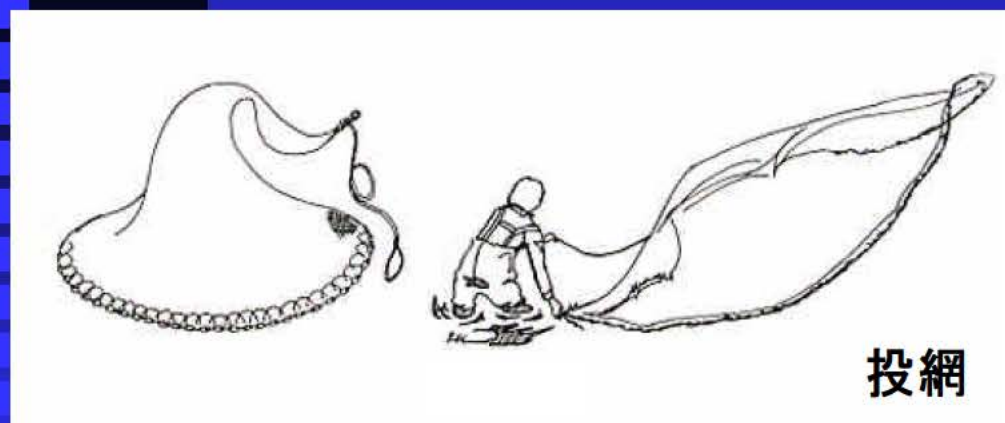
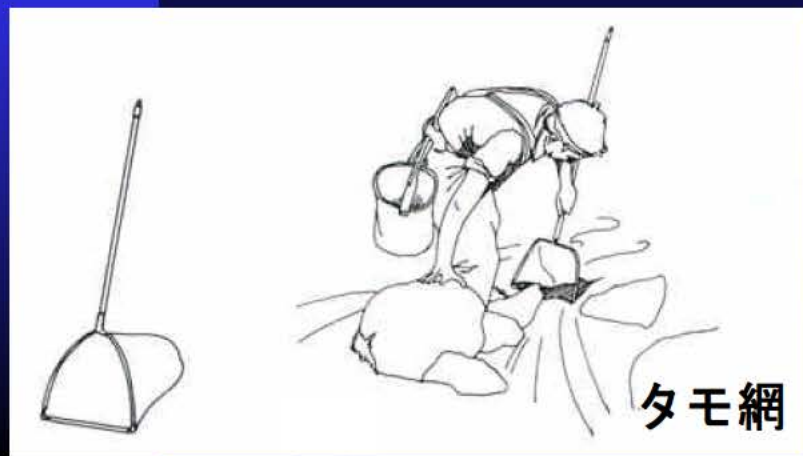
大阪湾

調査対象	調査年度	記号
魚介類	H2 H7 H11	●
底生植物	H6 H11	▲
鳥類	H4 H9	▼
陸上昆虫類	H7	★
両生類 爬虫類 哺乳類	H6 H8	■
植物	H5 H10	全川

但し、城北ではH2年度魚類調査を実施していません。
又、H2年度調査では貝、エビ、カニの調査を実施していません。

【代表的な生物調査方法(魚介類)】

淀川で使用している代表的な方法は以下のものです。



調査箇所状況により、様々な手法が実施されています。

出典: 平成9年度版河川水辺の国勢調査マニュアル¹⁷

【植物の調査方法】

植物調査では植生図作成調査 群落組成調査 植物相調査 植生断面調査が行われています。



1.1 淀川水系の特徴

【 淀川本川の特徴】



汽水域

ワンド

原野と
野草地帯

鶴殿の
ヨシ原

昆虫が豊富
な地区

1.1 淀川水系の特徴

【河口～淀川大堰の生息生物】

西中島地区の干潟



汽水域や干潟には、他地区で見られない生物が生息しています。河川敷には、ヨシ原が点在しています。

特徴的な魚類



ボラ 全長約28cm



スズキ 全長約50cm

都心にある有数の
水鳥の生息地



特徴的な植物



シオクグ
高さ 30
～60cm



ウラギク
高さ約50cm

特徴的な鳥類



カワウ 全長約82cm



ホシハジロ
全長約45cm

1.1 淀川水系の特徴

【淀川大堰～鳥飼大橋の生息生物】



淀川の特徴的なワンドが多数存在しています。ワンドは本川とは異なった自然環境を有しており、生物相を多様化しています。

特徴的な魚類



ニゴイ 全長40～50cm



ギンブナ 全長15～30cm

特徴的な鳥類



シラザキ
全長約93cm



コアジサシ
全長約28cm

特徴的な植物



ヤガミ スゲ
高さ 40～60cm



タコノアシ
高さ 30～100cm 21